



日本代表から学ぶ ～目標の共有とあきらめない心～

先日の全校集会の校長講話で、サッカー日本代表について子供たちに話をしました。2010年南アフリカ大会、当時の日本代表監督 岡田武史さんは、激闘に挑む選手達に「村祭りのたる酒」の話をし、「自分ぐらいは・・・という気持ちを排除し、一人一人がチームのために全力で戦う必要性」や「互いを信頼し合う大切さ」を説きピッチに送り出したそうです。当時の日本代表チームは世界のベスト16に進出しました。そして、そうした歴史を受け継いだワールドカップカタール大会での日本代表の金星。サッカーに詳しい人であれば、日本代表がワールドカップ4回の優勝を誇る強豪ドイツ代表に勝つ、それも、1点ビハインドの状況から逆転するとは想像もできなかったかも知れません。日本サッカー界に新たな歴史が刻まれた瞬間でした。試合後の選手のインタビューでは、これまでの努力に裏付けされた揺るぎない自信や最後まであきらめない心が目標を達成するためにはいかに大切かを教えてくれました。また、全員が目標を共有し、互いを信じ、連携しながら役割を果たすことで大きな成果が得られることも教えてくれました。それは、学校・学級という組織でも大切です。日本代表から学んだことを「チーム半田醸芳小」の充実にかかしていければと思います。「勝負は時の運」でもあります。最終的な結果はどうあれ、熱い気持ちを持って戦う日本代表を最後まで応援したいと思います。

がんばれ！日本！！

【村祭りのたる酒】

『ある村では、毎年実りの秋を迎えると、盛大に収穫を祝うお祭りがありました。村人は大人も子どももみんながこの村の祭りを楽しみにしていました。この祭りには、古くから伝わる儀式がありました。それは大きな“たる”に入ったお酒を小づちで割って、みんなで盛大に乾杯をして、祭りのオープニングを飾ることでした。



秋になり、今年も祭りがせまってきました。しかし、今年の祭りには大きな問題が起こってしまいました。農作物の不作で、儀式に使う“たる酒”が買えないのです。たる酒がなくては、祭りが始まりません……。村人は悩みました。こんな時、ある村人が言いました。「みんなの家にあるお酒を一人一杯ずつ、持ち寄ればいい。」そうです。みんなでお酒を持ち寄れば、今年も祭りができます。村人はみんな賛成して、お酒の持ち寄りが決定しました。

そして、いよいよ待ちに待った村祭りの日。オープニングはたる酒を割る鏡割りです。「せーの、エイ！」勢いよくたるが割られました。今年も祭りの始まりです。そして、たるからお酒が村人に配られました。村の長老が声を上げます。「かんぱーい！」そして一口飲み終えた後……。祭りの会場は静まりかえってしまいました。

「おや？」「あれ？」「変だな？」「味が・・・？」村人は互いに顔を見合っています。そして……。ある男が叫びます。「これは、水だ！！」……。たる酒の中味は水でした。村人は互いに顔を見つめ合い、そして、下を向いたまま黙ってしまいました。

【12月の主な行事】

- 1日(木) 学校保健委員会
- 2・5日 個別懇談
- 3日(土) 土曜学習(9:00～ 希望者)
- 6～9日 特別時程
- ※下校時刻を確認ください。
- 7日(水) 書き初め練習(3・4年)



※各学年の行事等につきましては「学年だより」を参照ください。

- 9日(金) 書き初め練習(5・6年)
- 2年町たんけん(よも～よ)
- 13日(火) 3年見学学習(警察署)
- 14日(水) 愛校活動
- 15日(木) 地区子供会
- 23日(金) 第2学期終業式(冬休み 1/9まで)

